

## アカデミックフェス 事後レポート

**企画名：** 学生・POLARIS(ポラリス)・大学—若者は先端科学を超えるか—

**企画名 (英語)：** Students, POLARIS, and Universities

- Do young people go beyond cutting edge technology?

**時 間：** 13:00~14:30

**会 場：** アカデミーコモン ROOM-B (A6会議室)

**登壇者：** 勝田忠広 明治大学法学部専任教授

平田知義 市民社会と科学技術政策研究所客員研究員

井関日向子 明治大学経営学部 4 年

菅野甲登 明治大学法学部 3 年

### 開催概要：

明治大学「市民社会と科学技術政策研究所」(POLARIS)による、現代の科学技術が社会に及ぼす課題に関する実践的試みを報告した。第1部では、現在取り組んでいる2つの挑戦的な研究を紹介し、第2部では、現役の大学生を交えて、先端科学技術とその政策に関する「共通認識」のあり方について参加者と対話した。

### 開催概要 (英語)：

Researches by the Policy Laboratory for Research on Civil Society and Science & Technology (POLARIS) were reported. In the first part, two challenging researches currently underway were introduced. In the second part, dialogue was held with university students about common understanding of science and technology and its policies.

### 開催内容：

本企画は第1部と第2部の二部構成で行われた。第1部「先端科学技術に翻弄される社会—研究中間報告—」では以下の2つの報告を行った。「機械・深層学習を用いた科学的根拠に基づくエネルギー・原子力政策の手法の確立」研究は、事故の根本的・間接的原因は政策にあるという独自の視点で、将来の望ましいエネルギー政策のあり方を科学的・定量的に求めるものであり、今回は、その第1ステップとして、福島事故以前に行われていた原子力政策を決定するための政府の審議会を対象に、その大量の議事録をデータ化して定量的な分析を行った結果を紹介した。続いて「人工知能の軍事技術への導入に関する調査：市民社会と科学技術政策からの分析」について、国連では、直接的な兵器への導入を念頭に、人間の関与なしに攻撃を行うと予想されている自律型致死兵器システム(LAWS)の議論が行われ、報道機関や市民団体などはこの技術を、殺人口ボ

ット、AI兵器と名付け、重大で深刻な問題だと主張している。本報告では、現在行っている技術への理解や価値観などの利害関係者への意識調査、また LAWS の技術的課題や将来の実現性の調査結果を紹介した。

第 2 部 学生と大学、科学技術と政策では、2018 年度に開催した公開連続講座「市民社会は最新の科学技術に追いついているのか？」に参加した 2 名の学生を招き、最新の科学技術に関するトークセッションを行った。これからの時代に必要な科学技術に対する共通認識について、文系の学生や大学の役割や可能性を議論した。

学長を始め約 35 名の参加者があり、成功裏に終了した。

以 上